

# 汚れないユニフォーム

汚れないユニフォームと言っても魔法のユニフォームではない。

彼は野球の大好きな少年である。おとなしいがとてもよい子だと人からは言われることが多い。西武ライオンズの松井稼頭央遊撃手にあこがれ、西武ライオンズ球場まで試合を見に行き写真をたくさん撮った。松井稼頭央遊撃手のTシャツがお気に入りである。野球した日には必ず、グラブをブラシで汚れを落としワックスを掛ける手入れを忘れない。グラブを誰かが触るとすぐに気がつき文句を言うほど大切にしている。背番号は23番である。好きな番号ということで、プロ野球やサッカーの選手に同じ番号の選手がいると喜んでいて、家での練習は欠かさない。家具に足をかけての腹筋と背筋、毎日の筋トレを汗まみれになって行う。彼は自分の背が小さいことを気にしてか、もっと大きくなりたいと思ったのか子供用のプロテインを飲むことを日課としていた。素振りも、ふすまや家具に当てないように足場にマットを敷いて行う。バットを持ち狭い家の6畳間の畳の部屋で毎日行う。時にはシャトルを15球を3セットと決めて打つ。

昨日の夜も、「明日は大会だし試合に出られるかなあ」とグラブの手入れをしながら言っていた。翌朝は母は5時起きで、「我が家は休日の方が早起きなんだから大変よ」とか言いながら弁当作りをしていた。そして彼を起こした。いつもは、なかなか起きられない彼も試合の日となると目覚めがよい。ある日たまたま休みが取れた私は、彼の姿を見にグラウンドに行った。彼のチームの監督はとてもよい人である。しかるときはしっかりと教え、褒めるときは本当に喜んでくれる。そんな監督には何も不満はない。彼は監督の話をよく聞いている。時々「ゴロの取り方はこうだよね」とか、「バッティングのフォームはこうだよね」とか監督が言ったことをしっかりと聞いていて復習している。彼のポジションは松井選手にあこがれてショートである。そっと遠くから同じユニフォームのショートを見ると23番ではなかった。23番はベンチにいた。少ししょんぼりとしながら、ベンチから声を出して応援をしていた。インングの終わりに円陣を組み監督の話を知っている。かけ声を掛けている。しかし打席に立つこともなく守備につくこともない。ただ中腰で声を掛けているか、椅子に座っているかである。彼は足が速いと思っていたし、練習もしっかりとやっていたと思っていた。何が悪くて試合に出られないのだろうか監督に聞いてみたい気持ちもあったが、監督がいつも見ているのだから仕方がないなと思っていた。自分も監督として同じことをしているのだから監督の気持ちがよく分かるからだ。しかし、そんな彼の姿を見るのはつらいものがあった。せっかく試合を見に来たが、監督にも彼にも声を掛けることなく帰った。

私は彼の良さをもっと引き出すことを考えた。もっと声を出すこと、闘志を前に向けて取り組むこと。そして、しかられても褒められても活動に参加していることを意識させたいと思う。いつかはレギュラーを、しかしだめでも気持ちだけは負けられないように前向きに取り組ませたい。そのために彼に協力をしていきたい。家での練習や試合に参加をして関わりをずっと持っていきたい。彼がチームを引退するときに、「よく頑張ったね」と例えレギュラーでなくても認めてあげるように自分も彼に関わっていきたい。人生の勝負は今ではなく、これからが勝負であると思う。しかしその為は今をどのように生きて立ち向かっていくのかを学んでほしい。それぞれがそれぞれの役割で立場で頑張っていて、輝いて生きていく力を身につけてほしいと思う。そんな彼を私はいつまでも応援していきたいと思う。

彼の名前はアキラ。私の次男。息子である。

彼のユニフォームは今日も汚れずに洗濯機へ入れられた。しかし、いつかこのユニフォームを真っ黒にして、きらきらと輝く笑顔で「だだいま」と言う彼を優しく迎えてあげたい。その為には私も頑張らなくては、世の中でもっとも大切な家族だから。関わっていきたい。

(これは次男が小学校5年生の時の文章です。)